

- 4) 水溶性分画は平均 1.3%の放射能活性を示した.
- 5) 酸性分画は最も放射能活性が低く平均 0.8%である.

110. 多嚢胞卵巣症例の尿中ステロイド排泄パターンについて—第1報— (大阪大)

足高 善雄, 倉智 敬一, 尾崎 公己
 広田 馨造, 宮崎 正敏, 谷 俊郎
 三井 磐, 鈴木 真水

目的: 無排卵症を治療するに際し, いろいろの問題性があるが, 中でも多嚢胞卵巣の占める位置は大きい. われわれは, 多嚢胞卵巣症例における尿中ステロイドパターンの特異性の有無を知らんとして以下の検討を試みた.

方法: 無排卵症の中多嚢胞卵巣の疑いある症例を対象として, Paramethasone 2~4 mg/day を投与しつつ HMG (Humegon 225 IU 宛3日間) の負荷試験を行って, 尿中ステロイド排泄パターンを検討した. また対象とした症例は開腹の上, 卵巣の組織学的検索を行つた. なお尿中ステロイド分画の測定は, Amberlite IRC-50 を吸着剤とする Column chromatography で行ない 17-OHCS, 17-KS 及び Estrogen を測定した.

成績: 多毛など必ずしも典型的な Stein-Leventhal 症候群を呈しないが, 開腹の上卵巣組織検査により多嚢胞卵巣を確認できた6症例(A症例群)及び多毛と無月経とを主訴とする2症例(B症例群)について, 次の様な所見を認めた(1) 尿中総 17-OHCS 値はB群中1例において稍高値を示したが, その他は正常範囲内にあつた.

(2) 総 17-KS 値はA群中2例が高値を示し, 他は正常値を示した.(3) 上記2例中1例は 11-oxy-17-KS と 11-deoxy-17-KS とが高値を示したが, 他の1例は 11-deoxy-17-KS のみが高値を示した.(4) 総 17-KS がほぼ正常値を示すが 11-deoxy-17KS が比較的高値を示したものはA群中に1例, B群中に1例認められた.

(5) 卵巣性 11-deoxy-17KS は Paramethasone 抑制中のHMG負荷試験により, A群中1例に18,320 μ g に達する異常増量が認められたがその他の症例では抑制前の値に迄増量を示したに過ぎない.(6) HMG負荷試験後 Estrogen が 150 μ g を超えて過剰反応を示したものがA群の6例中3例に認められた.(5) 及び(6) の事実から少なくとも多毛を呈しない多嚢胞卵巣での aro-

matization に決定的な障害はなく, したがって従来われわれが提唱している様に Estrogen 過剰反応を多嚢胞卵巣症診断の1つの手掛りにしようとする態度に根本的な不合理はないと考えられる.

111. 性周期に伴なう尿中ステロイド36分画の変動について

(岡山大)

吉田 俊彦, 伊藤 裕, 横尾 忍
 浅桐 英男, 石井 修平, 国富慎一郎

研究目的: 卵巣の Steroid Production は副腎に比して大きくはないが, 周期的変動が大きく, また最近の考え方である臓器間相互の関連という事から考えると, その変動が黄体ホルモン, 卵胞ホルモンに止まらない事も十分に考えられる. この卵巣の周期的変動が全 Steroid 代謝に与える影響を尿中 Steroid の分析によつて解明する事を試みた.

研究方法: 2例の健康婦人について, 3日ごとにそれぞれ1性周期採尿を行い, 各24時間尿について 17-KS 9分画及び Testosterone, Estrogen 4分画, Pregnane 系5分画, Glucocorticoid 9分画, Mineralocorticoid 8分画計36分画を測定(総計 792分画)した. 測定法はすべてわれわれの開発した原法で, さらに個々の分画の検討に加えてわれわれの提唱する Enzyme Work の概念にしたがつて分類検討した.

研究成績: Pregnane 系では Pregnanediol, Pregnantriol 以外に Δ^5 -Pregnentriol が黄体機能を反映して変動し, 同じ Pregnane 系でも Pregnantetrol, Pregnantriolone は黄体機能を反映しない. Testosterone と Estrogene に相関が見られるのは代謝経路より考え, うなづける所であるが, Androgenicity と Estrogenicity のバランスといった見方からすると興味ある所である. Mineralocorticoid と glucocorticoid は, いづれも 11-oxy のものは並行した変動を示すが 11-deoxy のものは解離する. Total Production に対する各酵素の Enzyme Work の比は一定しておる事は, 卵巣の周期的変動は全体の Enzyme Work を変動さす程は影響し得る事を示している.

112. 尿中テストステロンについて

(岡山大) 吉田 俊彦, 国富慎一郎

研究目的: 教室において開発した尿中 Testosterone 測定法により, 排卵性女性周期, 正常男性, 諸種疾患において尿中 Testosterone を測定し臨床的な意義を検討した.